

# 紅麴にふくまれるスタチンの役割について

芳野 原

東邦大学医療センター大森病院 糖尿病・代謝・内分泌センター 教授



すでに10年以上前から紅麴には血中コレステロールを低下せしめるスタチンが含まれ、その摂取によって血中 LDL-コレステロールが低下することが知られている。一方、脂質降下薬としてのスタチンは1980年代から全世界で繁用されている。

紅麴由来サプリメントの活性成分はモノコリンで、本サプリメントは14種類のモノコリンが含んでいる。モノコリンは肝臓でのコレステロール合成の律速酵素であるヒドロキシメチルグルタリル CoA (HMG-CoA) 還元酵素を阻害する作用を持つスタチンの1種である。遠藤章博士が世界で最初に発見したロバスタチンの実体は紅麴カビから分離されたモノコリン K であり、我々の研究を含み、複数の研究が、いくつかの紅麴サプリメントは、LDL-コレステロール値を有意に低下させると報告している。こうした研究結果が一般市民とメディアの関心を呼び、紅麴サプリメントの使用が勧められるようになったものと考えられる。

我が国で市販されている紅麴に含まれるモノコリンの量は製品ごとに異なり、ラベルに含有量の記載のないことが多いが、紅麴製品の1日の推奨摂取量は、服用に処方箋の必要なプラバスタチンに換算すると2ミリグラム程度と思われる。ちなみにプラバスタチンの常用量は1日当たり10から20ミリグラムである。我々の経験では海外からの直輸入の一部のサプリメントでは処方箋の必要なストロングスタチンに匹敵するような劇的な効果を示すものも存在する。

本講演では紅麴に含まれるスタチンそのものの血中 LDL コレステロール低下作用のみならず、直接的な動脈硬化抑制作用 (pleiotropic effect と呼ばれている) を紹介し、自験例を含め、紅麴製品の臨床効果を紹介したい。

## プロフィール

昭和46年 3月	神戸大学医学部卒業
昭和55年 7月	カナダ国オンタリオ州トロント大学医学部 リサーチフェロー
昭和59年 7月	神戸大学医学部第二内科学講座助手
平成 4年 6月	神戸大学医学部第二内科学講座講師
平成 4年12月	東邦大学医学部臨床検査医学助教授
平成 8年12月	東邦大学医学部臨床検査医学教授

平成15年	4月	東邦大学大森病院糖尿病代謝内分泌センター長	兼務
平成16年	7月	東邦大学医学部内科学講座糖尿病代謝内分泌科	教授
平成22年	4月	非営利活動(NPO)法人糖尿病教育学習研究所	理事長

専攻分野 内科学、代謝内分泌学、糖尿病、脂質代謝、肥満治療

学会活動 日本内科学会認定医  
日本糖尿病学会認定医 同認定指導医 同評議員  
日本動脈硬化学会評議員  
日本内分泌学会評議員  
日本肥満学会評議員  
日本臨床生理学会評議員  
日本老年学会評議員

共催：持田製薬株式会社